《ゲロッパ！》報告

6 月 9 日、ルナ・ホールにて映画『ゲロッパ！』を楽しみました。2024 年 10 月、西田敏行 76 歳は早過ぎる死でした。彼の回顧ニュースで取り上げられるのは釣りバカ日誌などの有名作品ばかりで『ゲロッパ！』はさして注目されない作品です。しかし彼のアドリブの暴走がもたらす高い演技の世界は確かに本作の中に濃密に詰まっていてそこは楽しめる作品でした。
参加者は 132 名、担当は企画Ｇでした。

◆解説・あらすじ《以下映画.com》
物語は、収監を控えたヤクザの親分・大介（西田敏行）が、離れて暮らす娘に会いたいという願いを叶えるために奔走するというもの。そこに彼の大好きなジェームズ・ブラウン（J.B.）の来日公演が絡み、部下たちが J.B.を拉致しようとするというドタバタ劇が展開されます。
この映画は、父娘の再会と和解という感動的なテーマを、ソウルミュージックとコメディで包み込んだユニークな作品です。特に、J.B.の音楽が物語のエネルギー源となっており、音楽好きにはたまらない演出が随所に見られます。西田敏行の演技は、アドリブを交えた自由奔放なスタイルで、彼の魅力が存分に発揮されており、特に、ステージでのパフォーマンスシーンは圧巻で、観客を巻き込む力がありました。
一方で、山本太郎やラサール石井といった後に政治的に注目される俳優たちの出演も、今となっては興味深いキャスティングです。また、団塊の世代が老境に差し掛かるという時代背景が色濃く反映されており、一種のノスタルジーを感じさせる作品でもありました。

◆見どころ
西田敏行の熱演：主演の西田敏行がヤクザの親分でありながらどこか憎めない、人間味あふれる羽原大介を好演。特に、J.B.の歌に合わせてノリノリで踊る姿は必見で、その役者魂が惜しみなく披露されています。

豪華キャスト陣の競演： 岸部一徳、常盤貴子、山本太郎、寺島しのぶ、桐谷健太、そして岡村隆史など、個性豊かな俳優陣が脇を固め、それぞれのキャラクターを活かした演技で物語を盛り上げました。特に、西田敏行と岸部一徳の息の合った掛け合いは、この作品の大きな魅力の一つです。

井筒和幸監督らしいユーモアと人情： 井筒監督ならではのシュールなギャグや勢い任せの展開、軽妙な関西弁の掛け合いが随所に散りばめられていました。一方で、親分と子分の絆、そして父娘の愛情が描かれ、観客の涙を誘う人情ドラマとしての側面も持ち合わせていました。

ソウルミュージックの魅力： J.B.の「Sex Machine」をはじめとするソウルミュージックが効果的に使われ、映画全体にグルーヴ感と高揚感を与えていました。

◆まとめ

『ゲロッパ！』は、井筒和幸監督の個性が光る、笑いあり涙ありの痛快なコメディ映画。西田敏行をはじめとする役者陣の熱演、ソウルミュージックの魅力、そしてユーモアと人情が織りなすストーリーが、観客を惹きつけました。多少の荒削りな部分はあるけれど、観終わった後に爽快感と温かい気持ちが残る一作と言えます。ソウルミュージックが好きな方であれば、より楽しめたに違いありません。

（広報Ｇ　兵東勇　記）

映画「ゲロッパ！」舞台あいさつ
笑顔をみせる（前列左から）井筒和幸監督、西田敏行、（後列左から）岸部一徳、常盤貴子（2003 年 8 月撮影）

西田敏行

ジェームズ・ブラウン